

大学名： 創価大学教育学部・教職大学院

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
<p>学校のユネスコスクール加盟を支援します。</p>	<p>1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。</p>	
	<p>2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。</p>	<p>はい。都立飛鳥高校、県立渡瀬養護学校、新座市立片山小学校の要請を受け、現地訪問あるいは Zoom 会議によって、先方の相談に対応した。</p>
	<p>3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。</p>	<p>はい。市教委を通じて、本学が主催するユネスコスクール支援フォーラムの案内を行い、研修の機会を提供した。市内の別所中学校に本学の SDGs イベントにおける実践報告の機会を提供した。</p>
<p>大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。</p>	<p>1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。</p>	<p>いいえ。地域のユネスコスクールからの支援要請はなかった。 ただし、大学として取り組んでいる SDGs の実践については積極的に HP で公開している。 SDGs 推進センター 創価大学 国連アカデミック・インパクト 創価大学 </p>
	<p>2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。</p>	<p>ユネスコスクールである玉川大学、成蹊大学および Univnet 加盟校である東海大学と協働して第2回関東ブロック大会(成蹊大学主催)を開催した。</p>
	<p>3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。</p>	
<p>地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。</p>	<p>1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	

	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	はい。関東ブロック大会をはじめ、本学で開催するユネスコスクール支援の学習会では常に八王子市教育委員会の後援申請を行い、市内の小中学校への広報を進めている。 創価大学ユネスコスクール支援委員会
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	はい。ユネスコスクール支援委員会が主催する年二回の集いに加え、学内の SDGs 推進センターのイベントでもユネスコスクールの取り組み紹介を行い、ユネスコスクールに対する認知を高めてきた。 創価大学ユネスコスクール支援委員会
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	はい。学部では「カリキュラム論」の中でユネスコスクールにおけるカリキュラムマネジメントを取り上げ、教職大学院では「ESD と異文化コミュニケーション」「ESD とユネスコスクール」の2科目で全面的にユネスコスクールとしての教育活動を担う教員養成を行っています。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	

	4. 自由記述	